



## ご挨拶



PTA会長 鈴木 寛子

会員の皆さまには日頃よりPTA活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本年度、PTA会長を務めさせていただきますが、鈴木寛子と申します。昨年度も、長引くコロナ禍の中で、子どもたちを取り巻く環境にますますの変化が生じる一年であったと思われまます。ニューノーマルと呼ばれる新しい社会のあり方を模索していくことが求められる世の中で、「これからの社会の担い手」となる力を育むべく、日々自立した学

にチャレンジすることに一生懸命な子どもたちの姿から、私たち大人も学ぶことの多い一年となったのではないのでしょうか。

このように予測困難な社会を自らの力で切り拓いていくことが求められる子どもたちにとっては、この社会の変化を柔軟に前向きに受け止め、持続可能な社会の担い手として、多様な他者とのかわりの中で、「答えがひとつではない問いに対して、正解ではなく納得解を創り出す力」が必要とされていると思います。

PTAは「子どもたちの健全な成長を図るため、保護者と教員がお互いに学びあつて高め合つていく」社会教育関係団体です。子どもたちが自らの夢を思い描き、明日への希望を胸に抱き、笑顔の花が咲き誇る未来へと歩んでいくことができるよ

う、子どもたちの最大の応援団として、子どもたちの成長に一番近くで寄り添うと共に、私たち自身も、それぞれの立場で研鑽に努める機会を大切にすることができると一年になればと考えております。

また、持続可能な社会の実現に向けては、先を見据えたPTA活動のあり方を模索していくことも必要であると思います。今年度の活動も、PTAの「不易」と「流行」を大切にしながら、皆さまと協働し、創意工夫を重ねながら子どもたちを中心に据えた活動に真摯に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、ご支援とご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 三つの「気」



校長 森山 隆弘

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃は

本校の教育活動に對しまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、六月に入つてこの原稿を書いていますが、体育祭に続いてSSH成果発表会が行われました。三年生の代表生徒たちの見事な発表を聞いて、一、二年生はきつと刺激を受けてくれたと思います。是非とも先輩たちを超えていつてほしいと思います。

「松高力」の一つとして「挑戦する力」を掲げていますが、私は生徒たちにいろんなことに挑戦してほしいとよく話をします。人は経験することで成長します。是非、部活動や生徒会活動など校内の様々な活動に積極的に参加するとともに、ボランティア活動等、学校外での学びの機会も生かし、様々な経験、多くの人との出会いをとおし

て、自己理解を深め、調和のとれた成長につなげてほしいと思います。その際、大切にしたいのが三つの「気」です。三つの「気」とは、「やる気」「根気」「本気」の三つです。「やる気」は、いろいろなことに挑戦しようという気持ちにもつながります。やる気があれば何に

でも積極的に臨むので、持っている力がどんどん引き出されます。やる気のある人は、覇気があり、生き生きしています。「根気」とは、粘り強く続ける力、すぐに諦めない力です。うまくいかないことがあつても決してくじけたり投げ出したりしない。失敗したままで終わらせない。ただの「失敗」ですが、成功するまで諦めなければ同じことでも成功へのステップです。「本気」とは、心の底からそうしたいと思ふ力です。そして、妥協を許さず、一心に何かに向かつていく強い思いです。本気で向き合えば、いつかそれが楽しみや喜びになり、たとえ疲れても充実感や達成感があるので、また次に進むことができます。そして、この三つの「気」をつなぐのが「努力」、目指すものはより高き目標であり、より高き自分です。やる気になつて事にあたれば、根気よく本気で努力を続けられ、必ず目標は実現します。そして、小さな目標を一つひとつ積み上げていくと、いつか夢のような大きな目標を達成することが出来ます。

私の好きな坂村真民さんの「つみかさね」という詩を紹介

します。

- 一球一球のつみかさね
- 一打一打のつみかさね
- 一步一步のつみかさね
- 一坐一坐のつみかさね
- 一作一作のつみかさね
- 一念一念のつみかさね

つみかさねの上に咲く花  
つみかさねの果てに熟する実  
それは美しく尊く

真の光をはなつ

仲間とともに、認め合い、高め合い、夢や目標を語り合いながら、一度しかない高校時代を悔いのない充実した時間にしてほしいと思います。失敗してもまた挑戦し、一つひとつのつみかさねを続けていけばいつかきつと花が咲く。そう信じて教職員一同全力で取り組んで参りますので、保護者の皆様には引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 東海地区

#### 高等学校PTA連合会 「岐阜大会」

六月十六日に長良川国際会議場メインホールで開催された、東海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」に参加しました。

開会式に続き、株式会社ブラスマイル代表取締役でアンガーマネジメントコンサルタントの濱崎明子さんによる講演が行われました。演題は「学校や家庭で役立つ心理学の想いを伝えるアンガーマネジメント」でした。濱崎さんは、アンガーマネジメントでは東海地区の第一人者として、多くのテレビや新聞等で紹介されています。また、夫婦関係のカウンセリング等、



東海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」

心の問題の専門家としての豊富なカウンセリング経験をもとに、教育現場から企業まで幅広く講演、企業研修、セミナー等に登場されています。今回のお話のポイントは「怒りを理解する」「怒りのコントロール方法」「想いの伝え方」の三つでした。特に印象に残ったお話を紹介します。

・アンガーマネジメントとは怒り以後悔しないことであり、怒らなければならないこと、怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要がないことは怒らないようになることである。

・怒りとは感情の一つであり、無くすることはできない。私たちが怒らせるものの正体は、自分の中にある「〇〇はこうあるべき」である。

・叱る(怒る)とはリクエスト(気持ち)を伝えることである。「前から言っているけど」「過去の話」「なぜ?どうして?」「帰ってくる言葉は過去の言い訳」「ちゃんとしなさい、しっかりしなさい」(程度言葉、程度は人によつて異なる)では、伝わらない。どうしたらいいか、次からはこうしてほしい等、未来について話をする方が良い。

・イライラを解消し、楽しく子育てするための三カ条 ①とりあえず六秒待つ(衝動のコントロール)、②ヒートアップしそうな時は一旦離れる、③叱る時は「次はどうしてほしいか」を伝える

アンガーマネジメントは精神論ではなく技術論なので、繰り返しトレーニングすればできるようになる、とおっしゃっていました。早速実践してみようと思いました。

研究協議では、岐阜県立武義高等学校PTAから「コロナ禍に負けない、PTA活動」について、静岡県立静岡農業高等学校PTAから「静岡農業高校PTAの活動」について、発表がありました。

来年度の東海地区高等学校PTA連合会は、三重県大会です。令和六年六月二十一日、三重県総合文化センターにて開催されます。

### 「三年生の夏」

三学主任 本橋 潤子

「彼は、教養のかけがえのない個性が、彼のすることではなくて、彼があるところに、あるという自覚を持つとうす

るところに軸を置いていることを強調しています。」  
—『であることと『すること』』

丸山真男 著

現代文の授業で丸山真男という日本の哲学者であり、政治思想研究家の文章を読んでいます。昭和二十八年に書かれた「日本の思想」という本のなかで書かれているこの文章は、学生必読と言われています。丸山真男は、アンドレ・シークフリードの言葉を引用しつつ、「教養とは、自分について知ること、自分と社会との関係や自然との関係について、自覚を持つことが問題であり、結果よりもそれ自体に価値がある」と述べています。

夏に入り、いよいよ進路実現にむけて本腰をいれなければならぬ季節になりました。受験勉強というと、合格か不合格か、偏差値はどのくらいか、などといった「結果」に重点がおかれます。志望校を高く掲げること、成績や結果を意識することがなければ、どのような努力をするべきなのか、工夫をするのが明確になりません。しかしながら、偏差値そのものや、合格そのものがすべてではありません。松阪高校を卒業していった

先輩達の多くが、受験勉強を通して、自分について考え、また友人や親に支えられている自分や他者を支えている自分を知り、時には涙をこぼしながら「教養」を積んでいたのだと感じます。

卒業生の保護者の方から、「あのときは、あの子、布団かぶつてうずくまって、どうしようかと思つたわ」といつたお話を聞くことがあります。このようなお話を伺うと、悩み立ち止まっている時間が、実は意味を持っていたのかもしれないと気づかされます。立ち止まったままでなく自分で顔をあげて進みだすには、保護者の皆様と学校とが一緒になって支えていくことが必要です。

三年生は、自分の持つ力や才能に気づき、また力のなさに涙しながら、ここに集い、励まし合い、競いあつて、ともに毎日を過ごす価値「教養を積んでいる時だ」と考えています。スポーツや文化祭といった行事を思い切り楽しみ、課外や模試に休まず懸命にとりくんで、一度しかない松阪高校三年生の残り七ヶ月を過ごして欲しいと願っています。

## 「一歩前へ」

二年生 有田 香

二年生に進級して三ヶ月が経ちました。昨年度は松高での生活や勉強に慣れることが目標だったと思いますが、今年度は「慣れ」に安住せず、新しい何かに挑戦する一年にしてほしいと思います。新型コロナウイルスが五月から感染症法の第5類に移行され、今年度本来の形で学校行事が実施されています。四月に実施された遠足では、観光客が増え混雑する京都東山を散策しながら、親睦を深める様子がそこかしこで見られました。六月の体育祭では各クラスが趣向を凝らし制作した約四メートルのクラスプレートを応援席に取り付け、リレーや綱引きに全力で挑んだり、応援したりする姿を見て、昨年より成長したことを実感しました。十月に実施する修学旅行に向け、今後さらにクラスや学年のメンバーとの親睦を深めていってほしいと思っています。

私たちの学年方針は「自主自律」「不易流行」「青雲之志」です。「いつまでも変わらない本質的な物を大切にしながらも、新し

い変化も取り入れる」そんな柔軟な姿勢で、高い志をもち、生徒と共に日々活動していきたいと考えています。高校二年生は、学校での学習だけでなく、SSHの探究活動や部活動、ボランティア活動、短期留学、そして各大学が実施しているオープンキャンパスや高校生対象の講座など参加できる貴重な時期です。この時期をどう過ごすかは、来年以降に大きく影響してきます。「未来は無量大」だからこそ生徒たちには恐れず挑戦してみるように伝えていこうと思っています。誰かに与えてもらうのではなく、自分でチャンスをつかめるようにアンテナを高くして、「新しい一歩」を踏み出すことの大切さをご家庭でも話していただけると幸いです。

四月十日の入学式から、はや三か月が経とうとしています。少しずつ緊張もほどけ、笑顔で過ごす様子を見ることも増えてきました。全国的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症もら類に移行し、今年度は学校行事も例年に近い形で実施されています。四月に実施された奈良公園周辺散策遠足では、グループ研修で和氣藹々と親睦を深める姿を、五月の中間考査では、今までのテストとは雰囲気の違い、高校でのテスト問題に戸惑いながらも真剣なまなざしで解く姿を見ることができました。六月には体育祭が開催されました。雨天のため延期となるなど、実施が危ぶまれましたが、クラスの皆様が団結し楽しんで取り組んでいる姿を見ることができました。次第に新しい環境にも慣れ、今後更に充実した高校生活を送ることができるようではないかと考えております。

## 「凡事徹底」

一学年 平 浩幸

育現場も変化の時期をむかえてきています。私たち教員も日々試行錯誤しながら授業を行っています。しかし基礎基本を大切に、日々コツコツと学習することの重要性や挨拶・礼儀を大切にすることは忘れてほしくないと思っています。「誰でもできるような平凡な事でも誰にもマネできないくらい徹底して行う事ができる人」様々なことに臆することなく挑戦しつつ、どのようなことにも毎日少しずつでもコツコツ努力できる姿勢そんな学年に生徒と共にしていきたいと思えます。

今後一層、高校生活に慣れる一方で生徒たちが、学習面や友人関係、部活動などいろいろなことに悩みを抱えることも多くなると思えます。学年団一同、保護者の皆様と連携しつつ、生徒を見守っていききたいと思っています。お気づきの事がございましたら、いつでもご連絡いただけると幸いです。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いたします。

一学年の学年方針は「凡事徹底」です。昨年度より新カリキュラムが始まり、一人一台モバイル端末を活用しての授業等教



# 令和五年度松阪高校の進学状況

進路指導専事 小林 泰

令和五(二〇二三)年度入試における本校卒業生の四年制大学の合格者数は、国公立大学一七六名(現役一七〇名)(昨年一七〇名、現役一五七名)、私立大学七二〇名(現役六九八名)(昨年五七七名、現役五五九名)でした。うち難関大は、東京大学一名、京都大学一名、大阪大学四名、名古屋大学十一名、神戸大学三名、北海道大学一名、東京工業大学一名、一橋大学一名でした。地元の名門三重大学は五五名(現役五四名)、医学科には一名合格しました。また、三重県立看護大学は十一名でした。国公立大学の合格者数は、現役で一七〇人となるなどすばらしい結果を残すことができました。なかでも東京大学に現役で三年連続合格者ができたことや、地元三重大学への合格者数が昨年度より増えたことは特に注目すべきところではないかと思えます。また、看護系においては、三重大学医学部看護

学科と三重県立看護大学に計一五名合格しました。将来、教員や医師、看護師として地元で活躍してくれる人が増えていることは大変喜ばしいことです。ことは大変喜ばしいことです。大学入学共通テストの平均点は昨年より上がりましたが、理科で点数調整が入るなど、志望校決定が難しい受験となりました。しかし、今年の卒業生も最後まで諦めずに努力を続けた生徒が多く、その成果が例年以上に現れた結果となったのではないかと思います。資料①

令和五年度共通テスト

共通テストの正式名称は「大学入学共通テスト」で、各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。毎年一月中旬の土・日曜の二日間に全国で一斉に実施される、日本最大規模の試験といえるでしょう。

国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではありません。

令和五(二〇二三)年度の大入学共通テストは、一月十四日・十五日の両日に実施されました。志願者数は五二二、五八一人(昨年五三〇、三六七人)前年比九七%、現役志願者数は昨年から一二、四九六名減の四三六、八七三人(前年比九七%)、既卒生志願者数は五一四三人減の七一、六四二人(同九三%)となりました。

多くの国公立大で必要となる七科目の受験者平均点は、文系型で昨年から二五点増の五三二点(九〇〇点満点)、理系型で四七点増の五五七点(九〇〇点満点)となりました。資料②

三年目の実施となった共通テストですが、「複数資料の提示」「日常や学習場面での問題解決を意識した題材」といった共通テストの特徴は、各科目の出題に反映されていました。

日常の事象の例では、「数学I・数学A」でバスケットボールのシュートを題材にボールの放物運動について考察する問題が出題されました。このほかにも政治経済の「少年法改正」「SDGS(持続可能な開発目標)」といった時事的な話題をテーマとした出題、化学基礎の「しょうゆに含まれる塩化ナトリウムの量」など身近な物質を取り上げる出題などが随所にみられました。

一方、かねてより指摘されていた問題分量はさらに増加しました。学習場面設定のための会話文の多用や、複数資料を提示することで多くの教科・科目で問題冊子のページ数が増加、とくに「国語」「世界史B」「数学I・数学A」「物理」などは前年から四ページ増となりました。単なる知識の確認ではなく、教科固有の「思考力・判断力・表現力」をより深く問うというコンセプトのもと、それぞれの出題における作題側の工夫もうかがえ、個々の問題では練られた良質な問題が多くなっています。反面、科目全体の難易度・分量といった面のバランスにややばらつきが見られます。

「数学I・数学A」「数学II・数学B」でそれぞれ昨年度より約十八点増加しました。数学では問題冊子ページ数は増えたものの、問題文は読みやすくなり、計算の負担が軽くなったことから平均点上昇につながりました。一方、「英語リーディング」「国語」「世界史B」「倫理・政治・経済」などで平均点はダウンしました。なかでも、「物理基礎」「生物」「政治・経済」などの科目ではセンター試験時を通じて過去最低点となりました。

理科では、主に理系生が受験する理科②で得点調整が行われました。最も平均点が高かった「物理」に対し、二〇点以上の差がついた「生物」との平均点差を調整するため「化学」「生物」で受験生の得点に調整がなされました。しかし、高得点者の割合など、物理受験者との差は調整前と比べても小さくはありません。選択した科目による不公平が拭えたとはいえない状況となっています。

得点調整は共通テスト移行後、一昨年に続き二度目の実施となりました。センター試験では三〇年で二回の実施だったことと比べ頻度が高いことは否めません。

本校は、三重大学を受験会場

令和五(二〇二三)年度入試における本校卒業生の四年制大学の合格者数は、国公立大学一七六名(現役一七〇名)(昨年一七〇名、現役一五七名)、私立大学七二〇名(現役六九八名)(昨年五七七名、現役五五九名)でした。うち難関大は、東京大学一名、京都大学一名、大阪大学四名、名古屋大学十一名、神戸大学三名、北海道大学一名、東京工業大学一名、一橋大学一名でした。地元の名門三重大学は五五名(現役五四名)、医学科には一名合格しました。また、三重県立看護大学は十一名でした。国公立大学の合格者数は、現役で一七〇人となるなどすばらしい結果を残すことができました。なかでも東京大学に現役で三年連続合格者ができたことや、地元三重大学への合格者数が昨年度より増えたことは特に注目すべきところではないかと思えます。また、看護系においては、三重大学医学部看護

学科と三重県立看護大学に計一五名合格しました。将来、教員や医師、看護師として地元で活躍してくれる人が増えていることは大変喜ばしいことです。ことは大変喜ばしいことです。大学入学共通テストの平均点は昨年より上がりましたが、理科で点数調整が入るなど、志望校決定が難しい受験となりました。しかし、今年の卒業生も最後まで諦めずに努力を続けた生徒が多く、その成果が例年以上に現れた結果となったのではないかと思います。資料①

令和五年度共通テスト

共通テストの正式名称は「大学入学共通テスト」で、各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。毎年一月中旬の土・日曜の二日間に全国で一斉に実施される、日本最大規模の試験といえるでしょう。

国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではありません。

令和五(二〇二三)年度の大入学共通テストは、一月十四日・十五日の両日に実施されました。志願者数は五二二、五八一人(昨年五三〇、三六七人)前年比九七%、現役志願者数は昨年から一二、四九六名減の四三六、八七三人(前年比九七%)、既卒生志願者数は五一四三人減の七一、六四二人(同九三%)となりました。

多くの国公立大で必要となる七科目の受験者平均点は、文系型で昨年から二五点増の五三二点(九〇〇点満点)、理系型で四七点増の五五七点(九〇〇点満点)となりました。資料②

三年目の実施となった共通テストですが、「複数資料の提示」「日常や学習場面での問題解決を意識した題材」といった共通テストの特徴は、各科目の出題に反映されていました。

日常の事象の例では、「数学I・数学A」でバスケットボールのシュートを題材にボールの放物運動について考察する問題が出題されました。このほかにも政治経済の「少年法改正」「SDGS(持続可能な開発目標)」といった時事的な話題をテーマとした出題、化学基礎の「しょうゆに含まれる塩化ナトリウムの量」など身近な物質を取り上げる出題などが随所にみられました。

一方、かねてより指摘されていた問題分量はさらに増加しました。学習場面設定のための会話文の多用や、複数資料を提示することで多くの教科・科目で問題冊子のページ数が増加、とくに「国語」「世界史B」「数学I・数学A」「物理」などは前年から四ページ増となりました。単なる知識の確認ではなく、教科固有の「思考力・判断力・表現力」をより深く問うというコンセプトのもと、それぞれの出題における作題側の工夫もうかがえ、個々の問題では練られた良質な問題が多くなっています。反面、科目全体の難易度・分量といった面のバランスにややばらつきが見られます。

「数学I・数学A」「数学II・数学B」でそれぞれ昨年度より約十八点増加しました。数学では問題冊子ページ数は増えたものの、問題文は読みやすくなり、計算の負担が軽くなったことから平均点上昇につながりました。一方、「英語リーディング」「国語」「世界史B」「倫理・政治・経済」などで平均点はダウンしました。なかでも、「物理基礎」「生物」「政治・経済」などの科目ではセンター試験時を通じて過去最低点となりました。

理科では、主に理系生が受験する理科②で得点調整が行われました。最も平均点が高かった「物理」に対し、二〇点以上の差がついた「生物」との平均点差を調整するため「化学」「生物」で受験生の得点に調整がなされました。しかし、高得点者の割合など、物理受験者との差は調整前と比べても小さくはありません。選択した科目による不公平が拭えたとはいえない状況となっています。

得点調整は共通テスト移行後、一昨年に続き二度目の実施となりました。センター試験では三〇年で二回の実施だったことと比べ頻度が高いことは否めません。

本校は、三重大学を受験会場

令和5年度入試 国公立大学 合格者数

	現役	過年度生	計
東京	1		1
京都		1	1
北海道	1		1
大阪	4		4
名古屋	11		11
東京工業	1		1
一橋	1		1
神戸	3		3
難関大計	22	1	23
北海道教育	1		1
北見工業	2		2
筑波	1	1	2
千葉	1		1
横浜国立	1		1
東京外国語	1		1
富山	2		2
信州	2	1	3
静岡	15		15
愛知教育	3		3
名古屋工業	10		10
三重	54	1	55
大阪教育	3		3
岡山	4		4
広島	2		2
鳥取	2		2
島根	1		1
琉球	1		1
前橋工科	2		2
千葉県立保健医療	1		1
神奈川県立保健福祉	1		1
公立小松	1		1
富山県立	1		1
福井県立	1		1
静岡文化芸術	1		1
静岡県立	1		1
名古屋市立	3	1	4
愛知県立	3		3
三重県立看護	11		11
滋賀県立	3		3
奈良県立	3		3
福知山公立	1		1
大阪公立	4		4
神戸市外国語	1		1
兵庫県立	1		1
県立広島	1		1
公立鳥取環境	1		1
山陽小野田		1	1
周南公立	1		1
計	170	6	176

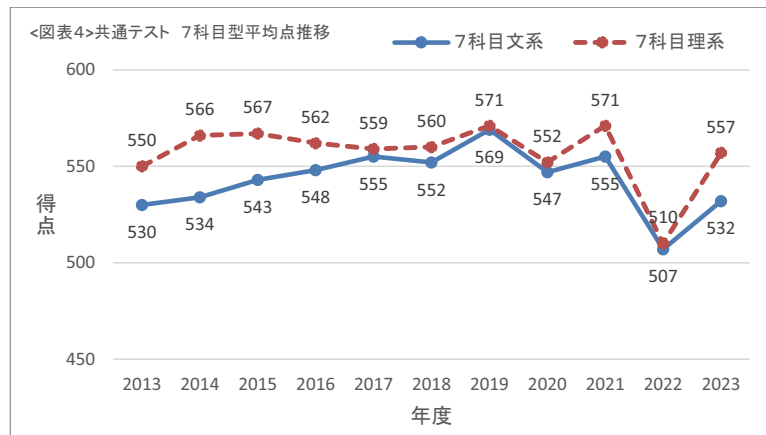
資料① 卒業生の進路状況

進路区分	普通科			理数科			総合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
国立	44	24	68	32	22	54	76	46	122
公立	9	18	27	4	6	10	13	24	37
私立	56	67	123	8	4	12	64	71	135
国公立短	0	4	4	0	0	0	0	4	4
私立短	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専修	0	2	2	0	0	0	0	2	2
各種(予備校)	9	5	14	3	1	4	12	6	18
就職	0	1	1	0	0	0	0	1	1
無職者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外留学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	118	121	239	47	33	80	165	154	319

最近5か年の大学合格数 ( )内は過年度生

区分	年度	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	H31年度
		入試	入試	入試	入試	入試
国公立	合格	176(6)	170(13)	155(11)	150(11)	146(11)
	入学	164(5)	155(11)	128(9)	137(10)	132(7)
私立	合格	710(12)	577(18)	707(26)	667(40)	508(33)
	入学	140(5)	135(0)	154(6)	171(8)	156(9)
短期	合格	6(0)	4(0)	13(1)	7(0)	9(0)
	入学	4(0)	3(0)	5(0)	4(0)	6(0)

資料② センター試験・共通テスト 5教科7(8)科目 平均点推移



※ 7科目型平均点は河合塾推定

7科目文系型：英：数(2)：国：理(1)：地公(2)(900点満点)

7科目理系型：英：数(2)：国：理(2)：地公(1)(900点満点)

※ 理科①は2科目で1科目とする

※ 2020年以前はセンター試験の得点である

※ 2021年は第1日程の共通テストの点数とする

な変更があります。二〇二五年  
一月に実施される共通テストで  
は、新教科「情報」を加えた七  
教科二科目へと再編  
されます。  
「地理歴史」「公民」で  
は出題科目が大きく再  
編されるほか、数学②  
では「数学Ⅱ・数学B・  
数学C」の一科目とな  
ります。試験は二日間  
で実施されますが、違  
う時間帯で受験してい  
た「理科①」「理科②」  
が同一時間帯となり、  
「数学Ⅱ・数学B・数学C」  
が六〇分から七〇分へ  
と増加するなどの変更  
が予定されています。  
二〇二三年五月には、  
各国公立大学の「情報」  
の扱いが公表されてい

として、三三三名が受験しま  
した。松阪高校の平均点は文  
系五三三・〇点(昨年四九三・九  
点) 理系五五六・九点(昨年  
五一・九点)という結果でし  
た。

新課程入試について  
現高校二年生から新学習指導  
要領がスタートしました。新課

程に対応した二〇二五年度入試  
では、大学入学共通テストの教  
科・科目の再編など、大掛かり

な変更があります。二〇二五年  
一月に実施される共通テストで  
は、新教科「情報」を加えた七  
教科二科目へと再編  
されます。

ます。大学によって様々であるのはもちろん、同じ大学同じ学部であっても、学科ごとに異なる場合もあり、志望校について事前によく調べておくことが重要です。

### 松阪高校の取り組み

文武両道の校訓の名のもとに、例年一二年の夏期課外は、午前中に実施し、午後から部活動を行っています。

部活も課外も両方気兼ねなく活動が行え、課外受講率も増え、ほぼ全員が受講する科目も出てきています。来年度以降もこの方針で実施していく予定です。「大学入学共通テスト」では、『学力の三要素』を多面的・総合的に評価するものへと転換することが必要と記されています。『学力の三要素』とは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を指します。従来の入試は、三要素のうち「知識・技能」が重視されてきた側面があり、多面的・総合的な評価になっていないことが指摘されてきました。今後は、三要素をい

そのために多様な選抜方法を実施することが一層求められていくことになりそうです。

本校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されており、「探究」活動の中で、先に示した『学力の三要素』のうちの特に「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育む学習内容の研究・開発に積極的に取り組んでいます。

### 令和六年度入試

令和六（二〇二四）年度共通テストの出題方法や試験時間は、昨年から変わった点はありません。国公立大学の入試要項は七月頃に発表になりますが、大学ホームページで常に最新の情報を確認してください。

理科の受験科目「科目を共通テスト出願時（九月中）に申請しますので、三年生は夏休みに理科の受験パターンを決める必要があります。進路指導部では毎年、「進路の手引」を作成して、本校卒業生の入試結果などの資料を提供しています。なお、進路に関する個人情報取り扱いには十分な注意を払っておりますが、受験のために必要な進路情報を入手するために予備校

などと連携を図っています。この点をふまえ模試や合否情報の提供にご理解をいただきますようお願いいたします。

さらに各学年の目標に応じて、諸情報（大学・学部・学科案内、オープンキャンパス、難易ランキング、など）や、将来の職業選択のための案内を載せた冊子を全員に配布しています。ご家庭でも一緒にご覧いただけると幸いです。個別的情報は、進路指導室の資料、インターネットのホームページ（各大学、大学入試センター、予備校など）で見てください。また、保護者の方も参加できる学校説明会やオープンキャンパス等が多くあります。ぜひ実際に足を運んでください。

今後とも、松阪高校の進路指導部にご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 生徒指導部より

生徒指導主事 栗谷 佳宏

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校における生徒指導に対し、ご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

本校では毎朝登校指導を行っています。校門付近は非常に交通量が多い上に、小中高の登校時間が重なるため、危険な場面が多々あります。しかしながら、時として、車道へのはみ出し、歩きスマホ、音楽をイヤホン等で聴きながらや並列での自転車走行等の行為が見られ、交通安全に対する認識が欠けている気がします。現実には一歩間違えれば、重大事故につながることも、加害者になることも十分考えられます。今後も交通安全指導について注意喚起をしていきたいと思えます。ご家庭では、朝食裕を持って登校できるようご協力をお願いします。また、四月より自転車のヘルメットが努力義務となりました。五月にヘルメット着用の調査を行ったところ、全体の三割しか着用はありませんでした。今後も着用を積

極的に勧めていきたいと思えますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願ひします。

本校では校内でのスマホ、携帯電話が一定の条件のもと使用可能となっております。正しい使い方をすれば大変便利なツールですが、使用方法を一歩間違えると本人のみならず他者に悪影響を与えてしまいます。トラブルで特に多いのが不適切なSNSの使い方です。他者の批判や悪口を書き込む、あるいは無断で他者の写真を掲載するなど、あまり深く考えずにSNSを使用してしまうと取り返しの付かないことが起こってしまいます。事が大きくなってから気づくのでは遅いため、ご家庭においてもスマホ等の使い方やSNSの怖さについて話す時間を持つていただくとうれがたいです。スマホやSNSに振り回されず、有効に使える人になってほしいと思っております。

年度初めに、挨拶の大切さについてお話をさせていただきました。周囲の人にちよつと挨拶するだけでお互いがよい気分になり、良好な人間関係が築けます。また、ちよつとした気遣いやお互いさまという気持ちの



大切さを学べるのも学校です。一人ひとりの行動はちよつとしたものでも全校九百人足らずが取り組めば大きな事になります。ご家庭においても「ちよつとしたこと」の大切さを話す機会を持つていただければと思います。

**夏休みに向けて**

いよいよ夏休みが始まります。学期中とは異なり、自由に使える時間が大幅に増加します。時間をいかに有効に使うかは本人次第です。生徒の皆さんは本校の校訓である「自主自律」を体現できるように、是非とも有意義な時を創り出し行動に移してください。自由な時間があるが故に不規則な生活になってしまうったり、校則に逸脱する行動をしたりしてしまつては、せっかくの夏休みが台無しです。二期に元気な、そしてひとりひとり大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

保護者の皆様におかれましても、お子様の生活についてしっかりと見守つていただくようよろしくお願ひします。

**SSH研究成果発表会**

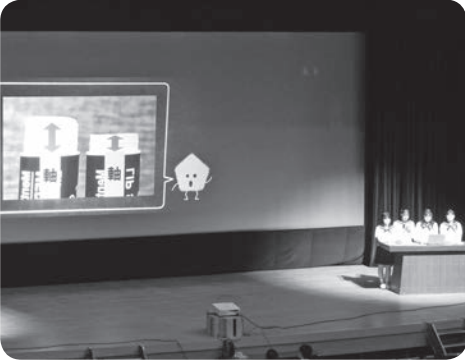
六月八日、クラギ文化ホールにて、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究成果発表会を開催しました。昨年度から一年間を通して課題研究に取り組んだ三年生のうち、選考会にて選ばれた八チームが研究成果を発表しました。

**最優秀賞・特別賞**

「最後まで使いきれぬリッ プクリーム容器の開発」  
「諦めるなドリーム、捨てるなリッ プクリーム」

**優秀賞**

「誕生日をあざやかに」  
「炎色反応」  
「災害に強い建物の構造」



**◎全国大会出場**

第47回全国高等学校総合文化祭  
文芸部  
文芸部門 俳句の部  
三年二組 奥田 円  
自転車の我押し漬す万緑や

**◎東海大会出場**

第70回東海高等学校総合体育大会  
陸上競技部  
400m H 二年二組 地主 怜央  
800m 三年三組 植杉 隼士  
円盤投 三年六組 中村 旭樹  
七種競技 三年六組 平本 実生  
5000m 競歩 二年三組 西村 歩華  
二年四組 喜多 萌衣

ソフトテニス部  
女子団体の部  
なぎなた  
三年三組 野村 茉央  
水泳(50m自由形)  
二年二組 伊藤 圭吾

ソフトボール部  
第52回後藤杯卓球選手権大会  
第75回中部日本卓球選手権大会  
二年五組 濱口 凌也(両大会)  
一年四組 宮田 航志(両大会)  
二年五組 井上 真歩(中部日本)  
第92回東海中日ジュニアテニス選手権大会  
テニス部  
二年三組 加藤 総一郎

**第43回近畿高等学校総合文化祭**

放送部  
朗読部門 二年二組 西本 遥

**令和五年度PTA本部役員**

会長	鈴木 寛子
副会長	橋本 有貴
副会長	橋本 健
書記	増井 光自
書記	大川 恭二
書記	高橋 佐和子
会計	白根 紗知子
会計	森川 直昭
監査	吉田 茂雄
監査	上村 恭啓
監査	小林 正拓
一学年部長	村上 憲也
二学年部長	雄谷 陽子
三学年部長	奥田 千明
顧問(校長)	小川 可奈子
顧問(校頭)	森山 隆弘
副会長(教頭)	入江 昇
副会長(教頭)	守屋 宏美
書記(教員)	豊田 公弘
書記(教員)	山口 政哉
書記(事務長)	澤木 由美
会計(事務)	上田 真美

# 令和五年度体育祭

令和五年六月五日晴天のもと、第七十回松阪高校体育祭が行われました。久しぶりに保護者の観覧が可能となり、たくさんの方が見守るなか、見事な競技やパフォーマンスが展開されました。どの競技

にも真剣に取り組む姿に松高の底力を感じました。生徒の皆さんにとっても素敵な青春のページになったことと思います。

最後になりますが、体育祭開催に際しましてご指導、ご協力いただきました方々に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

PTA会計 高橋 佐和子



三年六組パフォーマンス セっけん!ピーチ城



三年七組パフォーマンス 運命の竹神様は、誰に微笑む



MIXリレー



クラスプレート



松高最速クラス決定リレー



三学年競技 しっぽとり



二学年競技 綱引き



一学年競技 大縄跳び

総合優勝  
総合準優勝  
プレート優勝  
ブライマンズ優勝

三年六組  
二年六組  
二年七組  
三年七組

一年四組